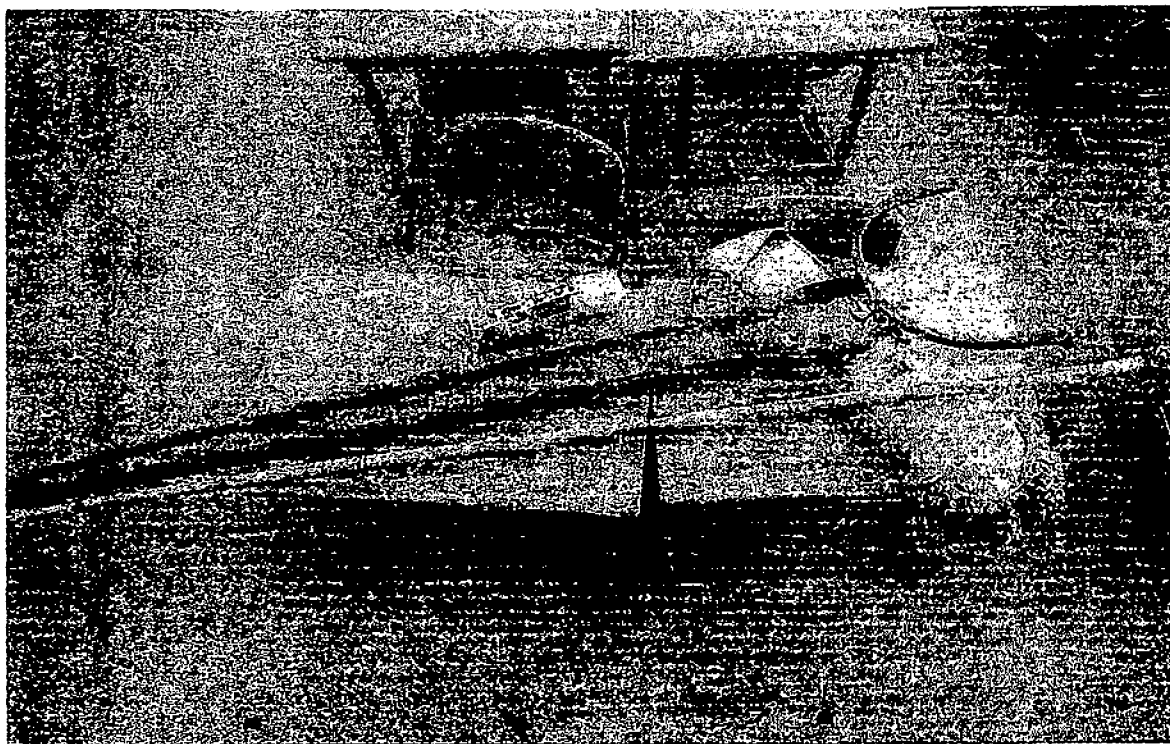


第69次 印旛地区教育研究研修会
安全教育分科会

研究主題

児童生徒の命を守るための行動
～学校で準備可能なものの活用について～



令和元年8月20日(火)

第二部会 安全研究部

富里市立根木名小学校

小倉 司

1 研究主題

児童生徒の命を守るための行動 ～学校で準備可能なものの活用について～

2 研究主題の理由

学校において、児童・生徒の安全で安心な環境での学習活動等が行われることはとても大切なことである。しかし、学校に侵入した者により児童生徒が殺傷される事件は、京都市立日野小学校（平成12年）、大阪教育大学附属池田小学校（平成13年）、宇治市立宇治小学校（平成15年）等があり、近年では富山市立奥田小学校の拳銃発砲事件と、不審者侵入により児童生徒の命が危機にさらされる事態は無くなることがない。

過去の事件から、危機管理マニュアルの改訂、防犯設備の見直し、地域との連携と、様々な取り組みが各学校で行われている。その中で、不審者対応のマニュアルに絞って考えてみると、各学校の規模・教室配置など様々な違いがあり「これが必ず正解」というマニュアルはない。

千葉県教育委員会から学校安全に関わる資料集安全管理の手引〔三訂版〕一部改訂（平成30年3月発行）には以下のようにある。

第3節 防犯に関する安全管理

防犯に関する安全点検を実施する際には、「学校等に侵入して行われる犯罪の防止に配慮した学校等の構造、設備及び管理に関する指針（千葉県教育関係職員必携）」を確認するとともに、これまで実施している施設・設備等の定期・臨時及び日常の安全点検と改善措置と併せて実施すると、効果的・効率的に実施できるものと考えられる。

本校は今年度全学年単学級で、担任をしている男性教諭が2人と少なく、不審者対応訓練で行動できる教諭も限られている。そうすると女性教諭も対応してもらわなければならなくなり、女性でも扱える道具が必要になると考えた。

そこで、本研究では学校のみより一層の安全を考え、不審者が侵入したとき、どのようなものを活用して行動・対応すれば、児童生徒の命を守れ、さらに自身の命を守れるか考え、本主題を設定した。

3 研究仮説

どの学校にもあるもの、用意できるものを、不審者と距離を保てる道具として活用すれば、児童が安全に避難する時間、対応している教職員の安全が確保できるであろう。

- ・どの学校にもあるもの、用意できるものにするために、特別なものを極力用意しない。
- ・実践的にするために、不審者役の教諭には攻撃してもらい、不審者対応の道具として活用できるか検証していく。
- ・専門的な観点から意見をいただくために、警察と連携をとっていく。

4 研究の実際

① 2～5月中に、学校内を安全点検しながら距離を保てそうな道具を探し、以下のものを発見。

- | | | | |
|-------------|-------------|----------|------|
| ・さすまた | ・ほうき | ・1 mものさし | ・モップ |
| ・児童生徒用机 | ・児童生徒用椅子 | ・傘 | ・消火器 |
| ・移動できる大型テレビ | | | |
| ・殺虫スプレー | ・竹の棒 (本校独自) | | |

② 6月11日に不審者対応訓練を実施。その際、どの学校にもある児童生徒用机と本校独自にあった竹の棒を活用する。(資料参照)

○本校教職員から出た反省点 (道具の活用についてのみ)

- ・攻撃してくる相手に、竹の棒を振り回すことで、一定の距離を保つことができたが、一気に距離を縮められると、竹の棒だけでは不安になった。
- ・児童生徒用の机だと、重たく、距離を保ち続けることが厳しかった。また、取り押さえに行ったとき不審者の凶器が体に当たってしまい、怪我をしたことになってしまった。
- ・現在地を知らせるために笛を使ったが、そうすると何も言えなくなってしまい、上手く伝えることができなかった。(不審者の現在位置を周囲に知らせる行動)
- ・インターフォンで教室から職員室に連絡が来るが、同時に来ると、受けることができなかった。(情報共有の不備)

○成田警察署生活安全課の方から

- ・距離を保ち続けるためには、常に相手にもものに向けておくことが大切になる。
- ・凶器を持っていて取り押さえる場合、不審者にある程度の怪我は仕方がないこともある。
- ・不審者に対して、高い位置が確保できるなら、道具を振り下ろすだけでも距離を取ることが可能。
- ・人数が少ない場合、取り押さえるより、追い出す、児童生徒に近付けないことを優先する。

③ 6月14日二部会安全主任等研修会で、道具を体感してもらう。

○参加した教諭から出た感想

- ・竹の棒が軽くて丈夫なので、扱いがとても楽だった。また、安価なのですぐに用意することができる。
- ・長いものを顔の近くで振り回されると、自然と仰け反ってしまうので、効果的だと思う。
- ・竹の棒や殺虫スプレーなら女性教諭でも簡単に扱える。
- ・道具が揃っていても、扱い方に慣れないといざというときに使えないと思った。
- ・本当に不審者が入ってきた場合、女性教諭も道具を持って対応しなければならぬので不安がある。

5 成果と課題

○成果

- ・不審者と距離が取れて時間が確保できるものとしては、竹の棒や殺虫スプレーが有効であることがわかった。これらは振り回したり、噴射したりするだけで効果があり、活用時に負担はかからない。女性教諭でも扱えそうという声が多かった。また、安価であるため各教室に常備することが可能である。
- ・不審者を取り押さえようとする、さすまたや児童用机が有効と考えられるが、さすまたは高価で取り扱うのに慣れが必要。児童用机は体重をかけて接近すればいいが、不審者が刃物を持っているときは、切りつけられてしまう可能性が高くなる。
- ・不審者と対峙する際、高い位置が確保できる場合は、高い位置から道具を振り下ろすだけでもいい。

●課題

- ・知識として理解していても、行動として「距離を取る」ことができなかった。
- ・不審者対応訓練の方法として、不審者を取り押させるだけでなく、校外に追い出す、声かけからスタートさせるといった場合を想定する必要がある。
- ・学校内に不審者が侵入してしまった際の、職員室への情報集約方法のわからないことがある。

6 まとめ

今回の提案を行うにあたり、不審者対応訓練について、考えを改めることができた。研究を進めるうちに、校舎の形、教室の配置、教職員の人数など、様々な部分に差があり、その中で、勤務している学校に合わせた不審者対応訓練をしなければならないという現状がよくわかった。校内にあるものは、重く長時間持ったり、振ったりするには不向きなものが多かった。また、軽くても強度が高くなかったり、短かったりして、さすまたを超えるものはなかなか見つからなかった。今回効果が高かった竹の棒は、本校に以前から設置されていたもので、さすまたより軽く、同等の距離を確保できるので、この道具を中心に考え、より多くの方に知っていただき、児童生徒の命、自身の命を守っていただきたいと思った。

しかし、研究を進めていく中で「不審者＝凶器を持っていて取り押さえなければいけない」というだけでなく「昔を思い出して入った」「何か盗もうとした」など、命に関わらないケースもあり、それらは言葉かけから不審者を確保することができたという。

そのことから、児童生徒が居るときの不審者対応訓練だけでなく、教職員のみで行う様々な場面を想定した不審者対応訓練も必要であると感じた。

7 今後に向けて

- ・声かけによる不審者対応の方法の研修。
- ・あいさつ運動の充実。
- ・安全主任同士の情報交流の活性化。

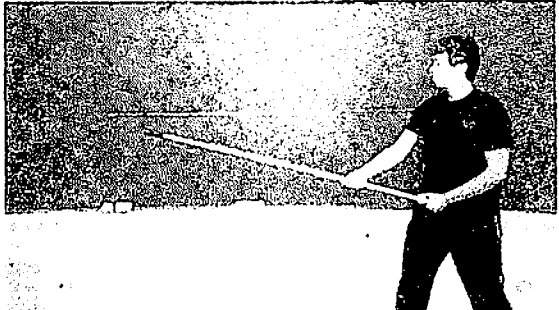
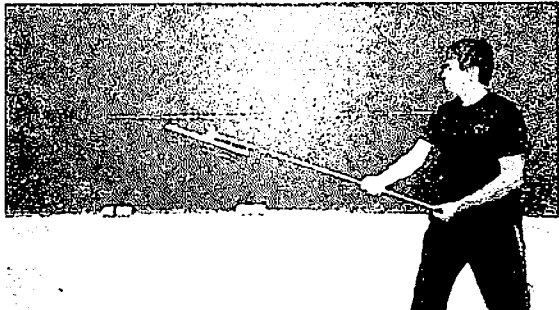
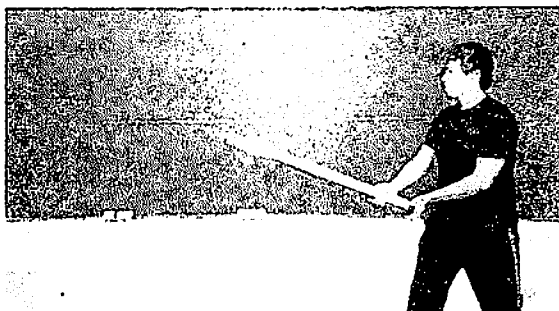
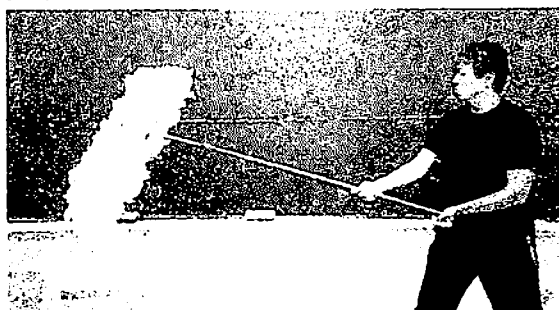
8 参考・引用文献

千葉県教育委員会HP

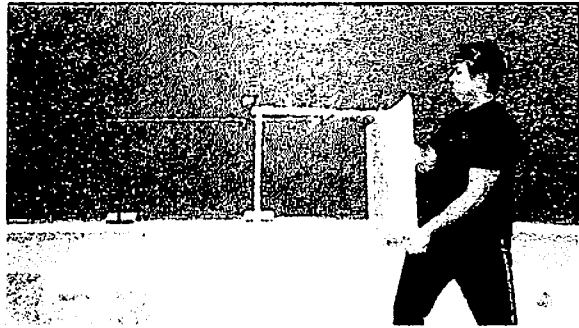
- ・学校安全に関わる資料集 安全管理の手引〔三訂版〕一部改訂（平成30年3月発行）
- ・学校等に侵入して行われる犯罪の防止に配慮した学校等の構造、設備及び管理に関する指針の一部を改正する告示について学校等に侵入して行われる犯罪の防止に配慮した学校等の構造設備及び管理に関する指針（改正後）
- ・富里市立根木名小学校 危機管理マニュアル

資料

1 本校で見つけた道具について

さすまた	使ってみた感想
	<p>不審者対応の代表的なもの。 警察の方も活用してくださいとすすめられる。 約2mは離れられる。 上手く扱うには慣れが必要。</p>
ほうき	
	<p>掃除用具としてどの学校にもあるもの。 手軽に揃えることができる。 女性の先生でも取り扱うことができる。 振り回すことで距離が取れるが、若干短いのと抑えつけるには不向き。</p>
1mものさし	
	<p>教職員の一番手の届く位置に置かれることの多いもの。 短いため不審者との距離を取るには不向きだが、扱いやすい。 学校によって木製、プラスチック製と材質に違いがある。</p>
モップ	
	<p>体育館などに置かれているもの。 先端が重たいが、振り回すのには不向き。 幅が広いので、不審者の移動を妨げる面が広く取れる。</p>

児童生徒用机



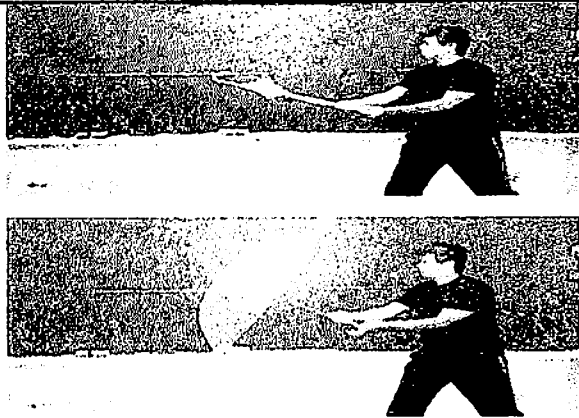
児童生徒が居る教室なら置いてあるもの。
重たいが、丈夫である。
振り回すことができないが、抑えつけるにはいい。
ただし、不審者との距離が縮まるので怪我に注意。

児童生徒用椅子



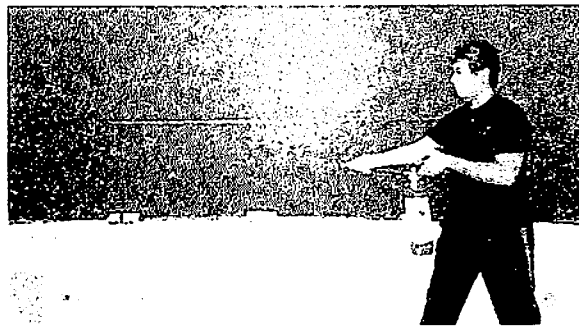
机同様、児童生徒がいる場所なら置いてあるもの。
机より軽く、取り扱いも簡単。
不審者との距離が近く、掴まれたり、凶器が当たったりする危険がある。

傘



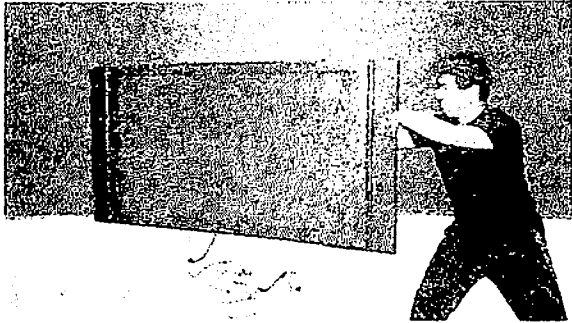
置き傘など、数が用意できる。
持ち手で引っ掛けたり、開いて面を広く取ったりすることができる。
不審者との距離が近く、掴まれたり、怪我をしたりする危険がある。
壊れやすい。

消火器



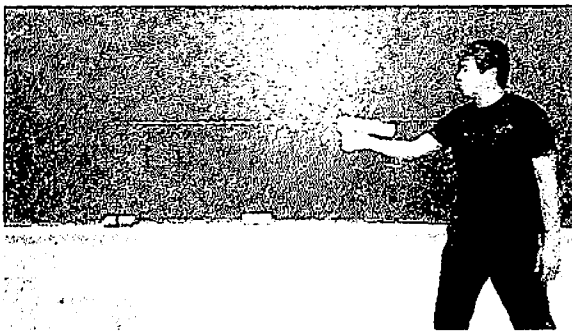
廊下で不審者と遭遇した場合、手に取れる可能性が高いもの。
噴射することで一定の距離と時間を確保することができる。

移動できる大型テレビ



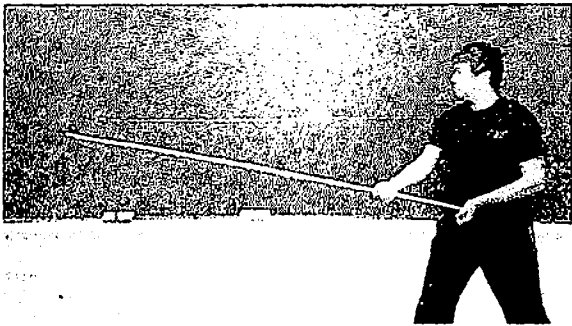
重たく、素早い動きはできないが、不審者との距離を取ったり、移動を妨げたりすることができる。

殺虫スプレー



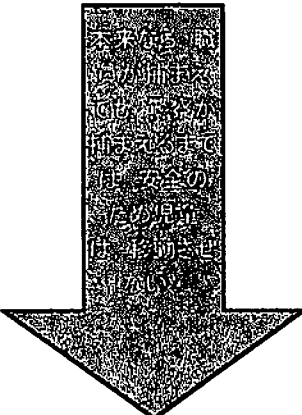
虫除けスプレーや殺虫スプレーなど、噴射することで不審者との距離が取れる。
ものによっては4～5m噴射できるものもある。

竹の棒



軽くて長く丈夫で、手軽に揃えることができ、女性教諭でも取り扱うことができる。
振り回すことで距離を取ることができるが、抑えつけるには不向き。

2 不審者対応訓練の流れ

時刻	不審者の動きと児童の行動と内容	指示・報告	担任・担当	準備
9:45	<p>☆正門より不審な人物が侵入 (不審者役：教務主任) (発見者：事務職員) ☆不審者は、昇降口より1F～2F, 3Fへ動く。</p> <p>1. 放送を聞く。</p> <p>☆不審者は、校舎内を動き、ドアをたたく等を行う。</p> <p>☆不審者が捕まる、または、不審者は、校外へ逃亡。 ☆今回は、確保されるパターンで行う。</p> 	<p>☆発見者は、職員室に連絡(直接または、インターホン) 発見者は、事務職員の可能性が高いが、その他の人が気づいた場合も躊躇無く。 ●ベルを鳴らす。(3秒間) ●「訓練、訓練、これから不審者からの避難訓練を行います。いただきます。『昇降口に大きな荷物が届きました。(暗号「昇降口より不審者が侵入しました。』』 『職員は受け取りに行ってください。(職員は対応をお願いします。』</p> <p>職員は、緊急対応マニュアルによって対応する。 全校児童は、先生の指示に従い、教室で静かに待機させる。</p>	<p>☆今回は、昇降口より侵入というパターンで行います。 ☆不審者が、校内を動き回る可能性があるため見かけた職員は、児童を守りながらも職員室に不審者の状況(リアルタイムの動き)をインターホン等で本部：職員室)を躊躇なく連絡する。 ・児童を落ち着かせ、静かにさせる。 ・放送をよく聞くように指示する。 ・男性職員は情報に応じ不審者の対応にあたる。(教諭A, 教諭B) ・どの通路を通り、現場に向かうかは、臨機応変に(東階段：男性教諭A 西階段：男性教諭B) ・不審者を見つけたら笛で周囲に知らせる。 ・児童は、防災頭巾を持ち、女性職員の教室にベランダを通して避難する。教室に長い棒を常設。教師がすぐ取れる場所に用意し、不審者対応できるようにする (対応教諭の学級児童は、教諭A, Bが退出後に前後ドアのカギを施錠する。→隣接する教室へ避難) ・教室の扉を閉め、机などでバリケードを作る。 ・警察への通報は、校長先生が瞬時に行う。 ・校内への連絡は、職員室の教諭が行う。(今回は、教頭先生。)</p>	<p>・避難を促す放送(教頭)</p> <p>・竹の棒 ・児童机 ・児童椅子 ・ヘルメット ・スプレー(霧吹き)</p>
9:50	<p>2. 体育館に避難する ・教師の指示以外の行動はとらない。 ・2列で避難する。 ・避難の約束を守る。 ◎おさない ◎かけない ◎しゃべらない ◎もどらない</p> <p>3. 人数の報告が終わったら、静かにすわって待つ。</p>	<p>●「児童のみなさんは、先生の指示に従って体育館に避難しましょう。」 ※保健室にいる児童とにじいる学級は東階段から2階に上がって避難する。 運動場にいる児童は体育館正面玄関から</p> <p>○年○組 在籍人数○名 欠席人数○名 計○名 全員避難しました。</p>	<p>・防災ずきんを確認する。 ・ヘルメットを着用する。 ・専科担当教諭による授業または、補欠指導の場合はその担当教諭の誘導で避難する。 ・児童検索担当場所を確認しながら、避難する。 ・人数を正確に数える。(不明の児童がいるときは、検索を急ぐ。)</p>	<p>ハンドマイク(職員室にいる方)</p>

10:00	4. 校長先生の話を聞く。		
10:05	5. 教室にもどり、避難訓練について反省する。		